

入院診療計画書

傷病名：子宮体がん 症状：

氏名 様

治療法：AP療法（アドリアシン・シスプラチン） コース目

西・東病棟 階 A・B 号室

	入院当日(～治療前日)	化学療法当日	治療2日目～	退院日																					
	月 日(～ 月 日)	月 日	月 日～	月 日																					
目標	治療の経過が分かる	予定どおりに治療が終了する	症状出現時は適切な対処が受けられる	退院時指導の内容が分かる																					
説明・指導	入院・治療について説明を行います。予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。ふらつき・めまい等があるときは必ず看護師を呼んでください。副作用症状がひどいときは、遠慮せずに話してください。		退院指導を行います。(生活指導や次回外来再診日の連絡)次回から外来化学療法を行う場合は、外来化学療法室のご案内・説明を行います。																					
治療処置点滴		<p>9時頃 点滴の針を入れ、準備します。</p> <p>スケジュール</p> <table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>15分間</td> <td>アロキシンという吐き気止めとデキサートというアレルギー予防剤の点滴をします。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>1時間</td> <td>ソルテム3Aとマグネシウムという腎障害予防の点滴をします。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td>フロセミドという利尿剤の注射をします。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>5分</td> <td>アドリアシンを点滴します。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>1時間30分</td> <td>シスプラチンを点滴します。</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>1時間</td> <td>ソルテム3Aとマグネシウムという腎障害予防の点滴をします。</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>5分</td> <td>点滴の管を流すため、生理食塩液を1本点滴します。</td> </tr> </table> <p>終了後、点滴の管をとめます。</p>	①	15分間	アロキシンという吐き気止めとデキサートというアレルギー予防剤の点滴をします。	②	1時間	ソルテム3Aとマグネシウムという腎障害予防の点滴をします。	③		フロセミドという利尿剤の注射をします。	④	5分	アドリアシンを点滴します。	⑤	1時間30分	シスプラチンを点滴します。	⑥	1時間	ソルテム3Aとマグネシウムという腎障害予防の点滴をします。	⑦	5分	点滴の管を流すため、生理食塩液を1本点滴します。	<p>2日目から体調が悪かったり、尿量が少ない時には、点滴をすることもあります。</p>  <p>フロセミド(利尿剤)を使用することがあります。</p>	<p>抗癌剤の主な副作用 発症時期による症状と対処方法について</p> <p>【投与直後から数時間】 発疹・発赤・顔のほてり・かゆみなどのアレルギー症状 → 抗アレルギー剤投与</p> <p>【投与から1～2日後】 便秘症 → 便秘薬(緩下剤)の内服 はき気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状 → 吐き気止めの内服 尿量減少・むくみ → 利尿剤の注射</p> <p>【投与から数日間経過してから】 白血球減少 → G-CSF製剤(白血球を増やす薬)を注射 貧血 → 輸血(頻度は稀です) 血小板減少 → 血小板輸血(頻度は稀です)</p> <p>【投与から1～2週間経過してから】 脱毛 → かつらやバンダナなどを使用 味覚の変化 → 味付けの工夫、うがいや亜鉛製剤の内服</p> 
①	15分間	アロキシンという吐き気止めとデキサートというアレルギー予防剤の点滴をします。																							
②	1時間	ソルテム3Aとマグネシウムという腎障害予防の点滴をします。																							
③		フロセミドという利尿剤の注射をします。																							
④	5分	アドリアシンを点滴します。																							
⑤	1時間30分	シスプラチンを点滴します。																							
⑥	1時間	ソルテム3Aとマグネシウムという腎障害予防の点滴をします。																							
⑦	5分	点滴の管を流すため、生理食塩液を1本点滴します。																							
内服		現在飲んでいる内服薬の確認をします。内服薬は基本的に継続内服とします。治療開始時～3日目まで、朝にイメンドという吐き気止めの薬を飲みます。		外来でも、吐き気止めや便秘薬の処方を行います。																					
検査	次の検査をすることがあります。 血液検査 胸のレントゲン 心電図検査 	6時 体温・血圧を測ります。 尿量を測定するので、尿をためてください。(治療当日6時～治療4日目6時まで)	 体調などをみて血液検査を行います。	外来で採血をして、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、次回の化学療法を延期し、白血球を増加させる薬を注射することがあります。 うがい、手洗いをし、マスクをつけ感染予防をしてください。																					
食事	基礎疾患(糖尿病・高血圧など)に応じて、治療食をお出しすることもあります。	 食欲に応じて食事変更出来ますので、医師・看護師に話してください。																							
生活・行動		特に行動に制限はありません。																							
清潔	入浴、またはシャワー浴ができます。	点滴治療中以外は、入浴、またはシャワー浴ができます。点滴の針が濡れないようにできますので入浴またはシャワー浴のときはお知らせください。体調が悪く、入浴・シャワー浴が出来ないときには看護師が援助します。																							
その他	入院後に熱が出た場合は、化学療法を延期していったん退院していただくこともあります。入院に、付き添いは必要ありません。	抗癌剤点滴開始初期(特に10分以内)に発疹などのアレルギー症状が現れることがあります。ほとんどは一時的なものでおさまりますが、症状が出現した場合は申し出てください。																							

特別な栄養管理の必要性 有 ・ 無

在宅復帰支援計画 無 ・ 有 ( )

総合的な機能評価 無 ・ 有 ( )

【診断群分類番号】12002xxx99x40x

【診断群分類区分】子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病 なし

注1) 病名等は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

注2) 入院期間については、現時点で予想されるものです。

注) 原本患者保管・自署以外のサインは印が必要です。

年 月 日

医師名

担当以外の担当者

在宅復帰支援担当者

本人・家族署名